

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(1)～(9)は段落番号を示す)

問題文は著作権の関係で掲載しません。

(注) 柳田國男：民俗学者。一八七五(明治八)～一九六二(昭和三七)年。著書に「遠野物語」「蝸牛考」「妹の力」「桃太郎の誕生」「海上の道」等がある。

家廟かびやう：中国において、祖先の霊をまつる建物。

問一、文中の傍線 ①～⑤について、カタカナを漢字に、漢字を平がなに改めよ。

問二、文中の I、III に最も適切な語句を、次のア～オから選び記号で答えよ。

ア なぜなら イ つまり ウ しかし エ しかも オ あるいは

問三、文中の傍線 1 について、これらの場面が「際立つ」理由を説明せよ。

問四、A、B、C のそれぞれに最も適した語句を本文中から五文字以内で抜き出せ。

問五、文中の傍線 2 とすると、「声」の場合は何に結び付けられるか。

問六、D に最も適した語を漢字二文字で答えよ。

問七、文中の傍線 3 の意味をア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア まったく イ ぜんぜん ウ 大いに エ 少し

問八、「耳切れ団一」や徳島県、新潟県に口頭伝承として残る昔話と「耳なし芳一」は文字の特質という点で何が異なるのか。本文の論旨に従って説明せよ。

問九、文中の傍線 4 の例として考えられるものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えよ。

ア 小学校で、漢字や仮名といった文字を覚えるためにノートに繰り返し書くという宿題が出された経験をした。

イ 黒板に文字が書かれはするが黒板は主に掲示板的な役割をはたすのみであり、授業は口頭で行われるというスタイルがある。

ウ 音声中心主義的な言語観では、言語は文字や表記法にいささかも従属することがない「音声」的な現象であり、「声」こそが言語的思考の真の対象である」としている。

エ 外国語を学ぶ時、目を閉じて単語を指先で宙に描き、単語と音声の連なりの記憶を呼び起こした。

才 複雑な綴りの単語のスペルであっても視覚的記憶を指先の動きから思い出そうとする
ことはない。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(1～9は段落番号を示す)

問題文は著作権の関係で掲載しません。

(注)

ヒューマー・ユーモア。humour (英)。

ブラウニング・ロバート・ブラウニング (1812～1889)。イギリスの詩人。本文での引用は長編劇詩「ピパが通る」(1841)中の短詩「春の朝」(原詩では「Pippa's Song」)。

日本では上田敏の訳詩集「海潮音」(1905)所収の「ピパの歌」により広く知られた。原詩では、罪を犯して喧嘩をしている男女が、二人の横を歌いながら通る純真な少女ピパの歌に感化されて改心する。

揚雲雀あげひばり…空高く舞い揚がって、地上からは見えないが鳴き声で存在がわかるヒバリ。春の繁殖期の鳴き声は縄張り宣言だが、日本文化では春のどかさを表す風物詩とされる。

俳句での季語は春。

蝸牛かたつむり…「カギユウ」と音読みにすると、人間界のつまらぬ争いと自然の広大さを比す格言「蝸牛角上の争い」を想起できる。

知ろしめす…お治めになるの意。原詩「God's in his heaven」の直訳は「神は彼の天に在る」。すべて世は事も無し…この世は無事平穩の意。原詩「All's right with the world」の直訳は「世はすべて正し」。

問一、文中の傍線 ①～⑤について、カタカナを漢字に、漢字を平かなに改めよ。

問二、文中の **I** **III** に最も適切な語句を、次のア～オから選び記号で答えよ。

ア ところが イ つまり ウ あるいは エ さらに オ たとえば

問三、文中の傍線 1 について、「原語において見えなかったものに別の角度からの光をあてる」ことによってわかることはなにか。筆者が示す二つの例をあげて答えよ。

問四、文中の傍線 2 「美しい反逆」を本文中の二文字で言い換えよ。

問五、文中の傍線 3 について、次の①・②に答えよ。

① 原詩「The lark on the wing」を上田敏は「ひばりが飛ぶ」と直訳せずに「なのりいで」と翻訳している。この訳で用いられている表現法を漢字三文字で答えよ。

② 「蝸牛」を音読みすると三音になる。それを和語で「かたつむり」と読む理由を「春の朝」という詩の音数という面から説明せよ。

問六、傍線 4 について、筆者が「翻訳的創造性」に必要なとしている二つの条件はなにか。